

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-139	A-750	14-013 滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Patterns of alcohol consumption and myocardial infarction risk: observations from 52 countries in the INTERHEART case-control study. 飲酒様式と心筋梗塞リスク : INTERHEART case-control study における 52 カ国の観察研究からの報告		
<b>執筆者</b>		
Leong DP, Smyth A, Teo KK, McKee M, Rangarajan S, Pais P, Liu L, Anand SS, Yusuf S; INTERHEART Investigators.		
<b>掲載誌</b>		
Circulation. 2014 Jul 29;130(5):390-8. doi: 10.1161/CIRCULATIONAHA.113.007627.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
飲酒、疫学、心筋梗塞、危険因子		24928682
<b>要 旨</b>		
<p><b>背景：</b>            中等度の飲酒は心筋梗塞に対して保護的に作用するが、この効果が世界中の様々な民族について一般的なのかどうかはほとんど知られていない。また、異なる地域間の飲酒様式の違い（特に過度の飲酒）がこの保護的効果を打ち消すのかどうか不明である。</p> <p><b>方法：</b>            INTERHEART case-control study を用いて、52 カ国から、初回の心筋梗塞患者 12,195 名と性・年齢をマッチさせた対照 15,583 名を分析対象とした。ロジスティック回帰分析を用いて、交絡因子を調整し、飲酒の心筋梗塞発症リスクに対するオッズ比を算出した。</p> <p><b>結果：</b>            現在飲酒習慣を有する者は、非飲酒者と比較して、心筋梗塞発症リスクの低減と関連していた（調整オッズ比 0.87, 95%信頼区間 0.80-0.94, P 値 0.001）が、その関連の強さには地域差を認め（交互作用の P 値 &lt;0.001）、中東や南アジアの地域においては明らかではなかった。6 杯以上の過度の飲酒は、飲酒後 24 時間以内の心筋梗塞発症リスク増加と有意に関連していた（調整オッズ比 1.4, 95%信頼区間 1.1-1.9, P 値 0.01）。また、このリスク増加は、特に 65 歳以上の高齢者において、顕著であった（調整オッズ比 5.3, 95%信頼区間 1.6-18, P 値 0.008）。この関連の強さは軽度の地域差を認め（交互作用の P 値 0.049）、アフリカや中国の地域においては明らかではなかった。</p> <p><b>結語：</b>            大部分の分析対象者において、適切な飲酒は中等度の心筋梗塞リスク低減と関連していたが、この関連の強さは世界中の異なる地域において一定ではなかった。過度の飲酒はその後 24 時間以内の心筋梗塞発症リスク増加と関連しており、特に高齢者において顕著であった。</p>		